

評価項目	評価点	指摘事項
1 組織管理	4 / 5	人員削減に対応し組織改編を行いながらも、試験研究の質を維持すべく研究員の確保に努力している。なお今後の問題として特に支援部門の質の維持について検討が必要。
2 事業内容および予算配分	4 / 5	県の試験研究推進構想に沿った事業の推進がなされている。また研究勢力を有効に活用するため課題の重点化をしている。予算状況の厳しい中、財産収入も上げており、国委託費の獲得など予算獲得に努力している。支出では共同研究や委託試験などで節約に努めているものの、飼料費と人件費の支出割合が高く、試験成果を上げるためにも試験に使える予算確保に努めてほしい。
3 施設の整備状況	2 / 5	一部豚舎を除き新たな施設整備が行われていないため、老朽化や旧式化が進んでいる。適宜補修はされているが、実証試験の信頼性や労働安全、防疫面のこともあり、計画的な施設整備が望まれる。分析機器等も決して潤沢ではないが、県内外の機関との共同研究などでカバーするなど努力が認められる。
4 研究事業の成果	5 / 5	県の試験研究推進構想に沿って課題の重点化をはかるなどしながら着実に成果を上げており、完了課題の事後評価も高い。現場に近い研究成果が多く、畜産関係者の評価も高い。また研究成果の一部は学会等で公表するなど外部の評価を受けている。
5 普及啓発活動	4 / 5	コンスタントに成果を出しているのに加え、普及性のある成果が多く、山梨ブランドの豚、鶏の作出や暑熱対策、トレハロースなどの研究成果は畜産現場で活用されている。成果発表会を通じた情報発信も行っている。
総合評価	4 / 5	組織管理と施設整備、予算の面で今後検討あるいは対策が必要な問題はあるものの、本務である試験研究の面では限られた予算の中で確実に成果を上げていると評価。また普及性のある成果を上げている点は高く評価できる。

「注」 評価点の目安

評価	高い	やや高い	普通	やや低い	低い
点数	5	4	3	2	1

試験研究機関の処置

今後も畜産現場に密着した改良・試験研究を行い、成果を普及するよう努めていく。老朽化した施設等については、防疫面及び安全面に配慮し計画的に施設整備を行なっていきたい。